



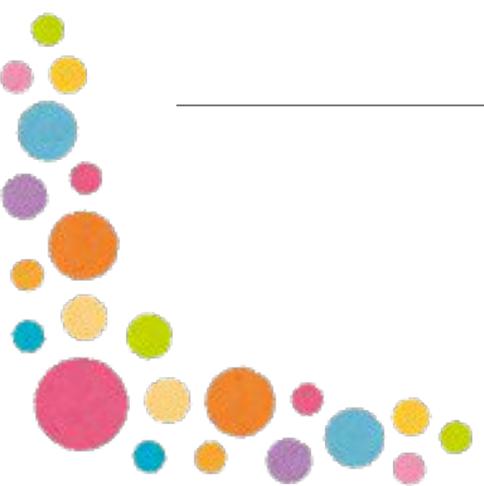
近年の結婚実態におけるレポート

看護情報学 特論 I

2019. 6. 13

公衆衛生看護学 上級実践コース

島本 絢実



本日の内容

- テーマの選定理由
- 日本の婚姻状況
- 結婚という選択
- 今後期待したいこと
- さいごに



テーマ選定理由

日常での疑問

結婚は誰も考える、ライフサイクルのひとつ

選択肢：結婚する？しない？したい？したくない？

選択の理由：生活のため？経済的なこと？安らぎ？病気？転勤？

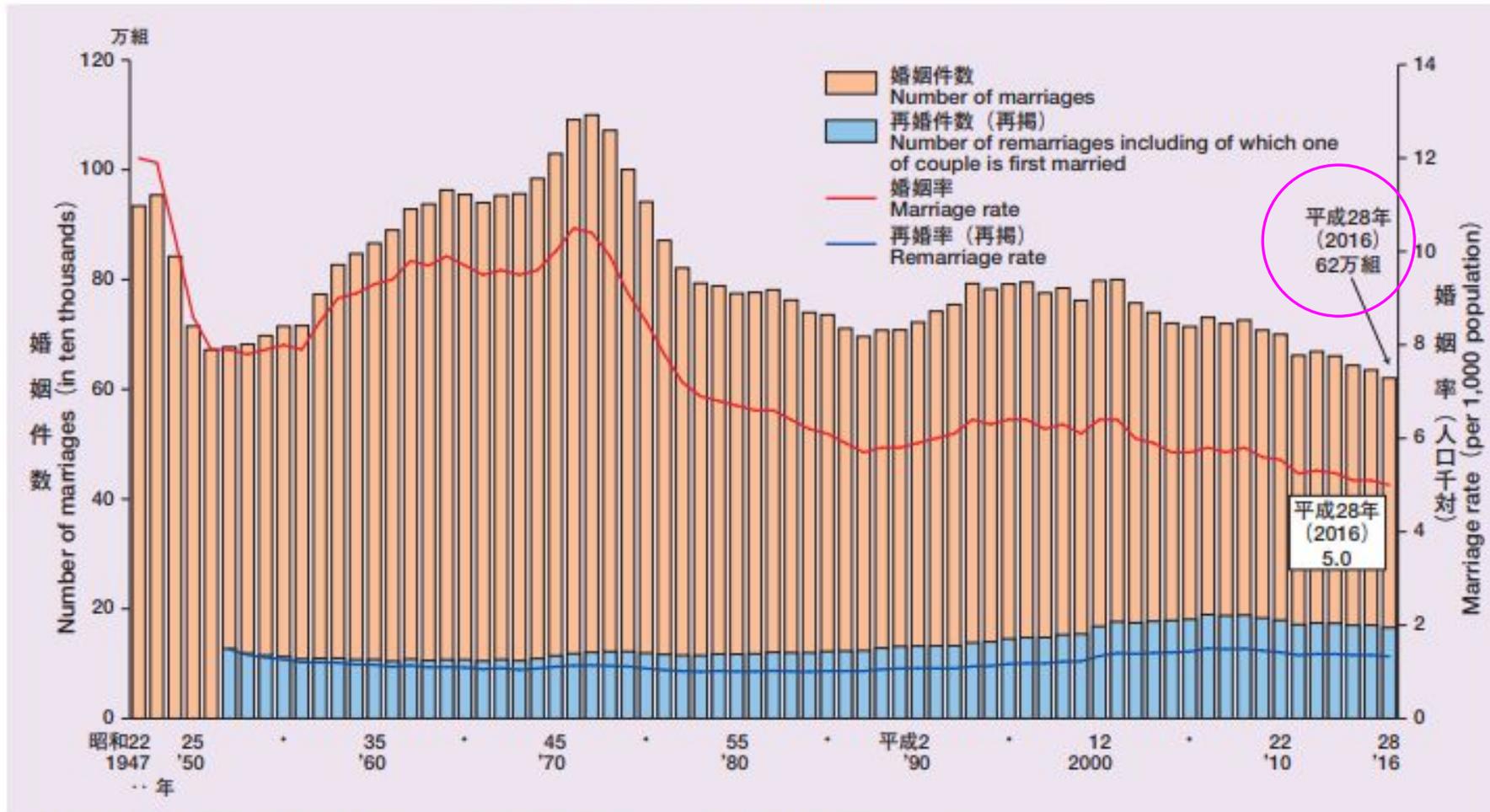
学びからの疑問

夫婦になることは最初の家族形成で、家族は最も身近なコミュニティ

日本の婚姻状況：婚姻件数は減少

婚姻件数及び婚姻率の年次推移－昭和22～平成28年－

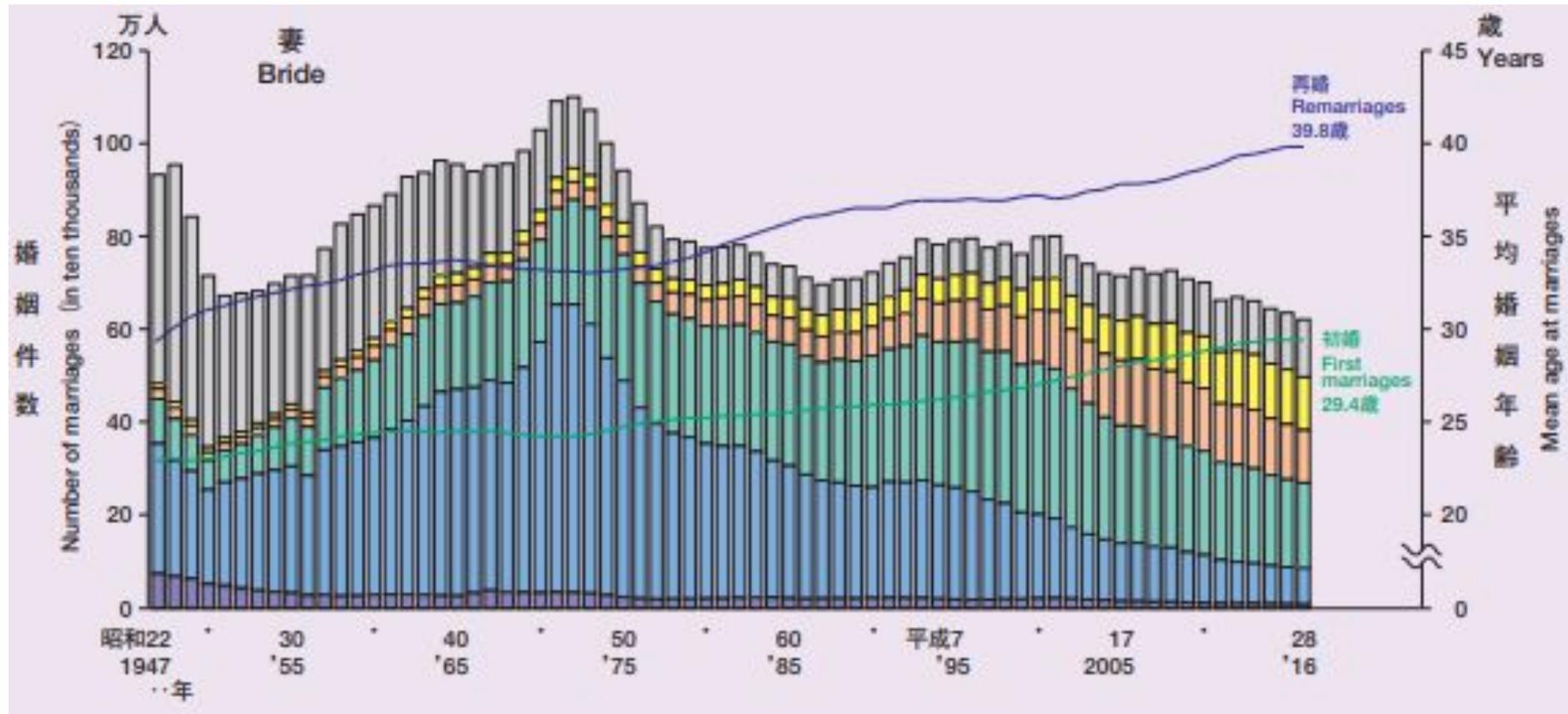
Trends in marriages and marriage rates, 1947-2016



注：再婚件数・再婚率（人口千対）は、夫妻とも再婚又は夫妻のどちらか一方が再婚の件数・率である。

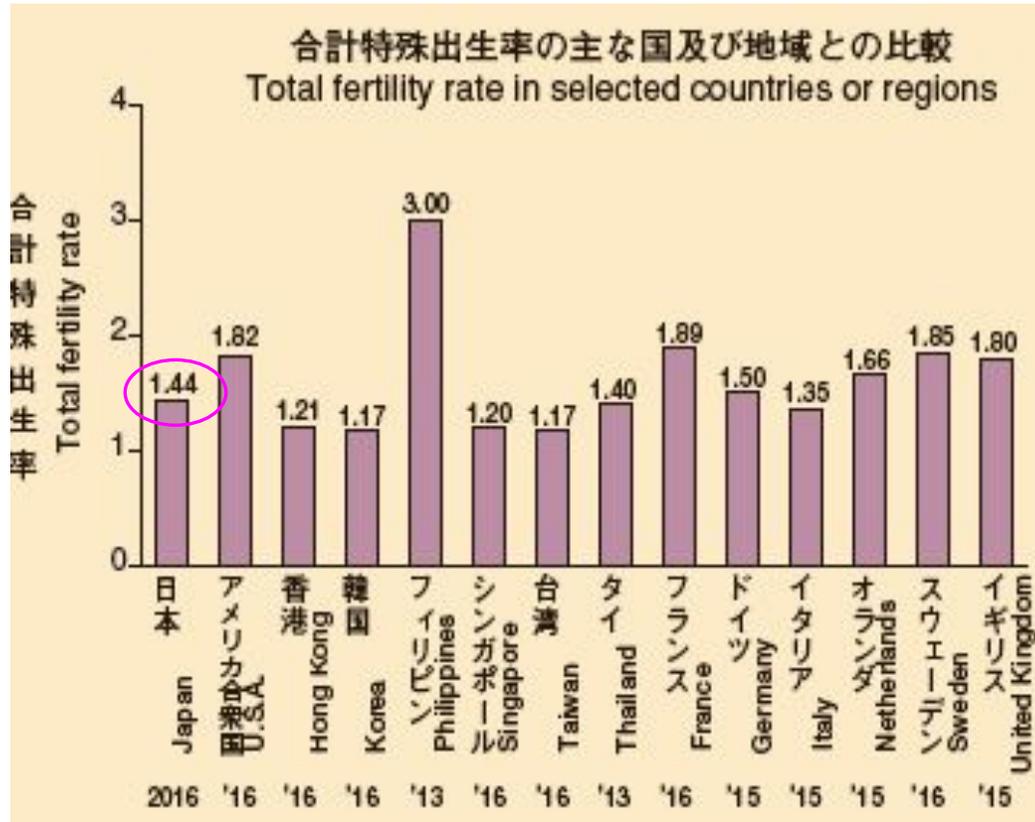
日本の婚姻状況(つづき): 夫・妻ともに晩婚化

妻の年齢階級別に見た婚姻件数及び平均婚姻年齢の年次推移—昭和22～平成28年—



平均婚姻年齢
初婚(H28年)
夫: 31.1歳
妻: 29.4歳

日本の合計特殊出生率



出生に占める嫡出でない子の出生割合の国際比較
Proportion of births born out of wedlock in total live births in selected countries

国	年次	割合(%)
Country	Year	Percentage
日本	2016	2.3
アメリカ合衆国	2015	40.3
韓国	2016	1.9
フランス	2015	59.1
ドイツ	2015	35.0
イタリア	2015	30.0
スウェーデン	2015	54.7
イギリス	2015	47.9

日本の合計特殊出生率増加させるには、
婚姻率、または非嫡出子を増やすか

結婚という選択：未婚者意識について

✓生涯の結婚意思（1987年調査との比較）

いずれは結婚するつもり 男性91.8→85.7% 女性92.9%→89.3%

一生結婚するつもりはない 男性4.5→12.0% 女性4.6→8.0%

✓結婚の利点／結婚する利点あると思う 男性：64.3% 女性77.8%

✓独身の利点／独身生活に利点あると思う 男性83.5% 女性88.7%

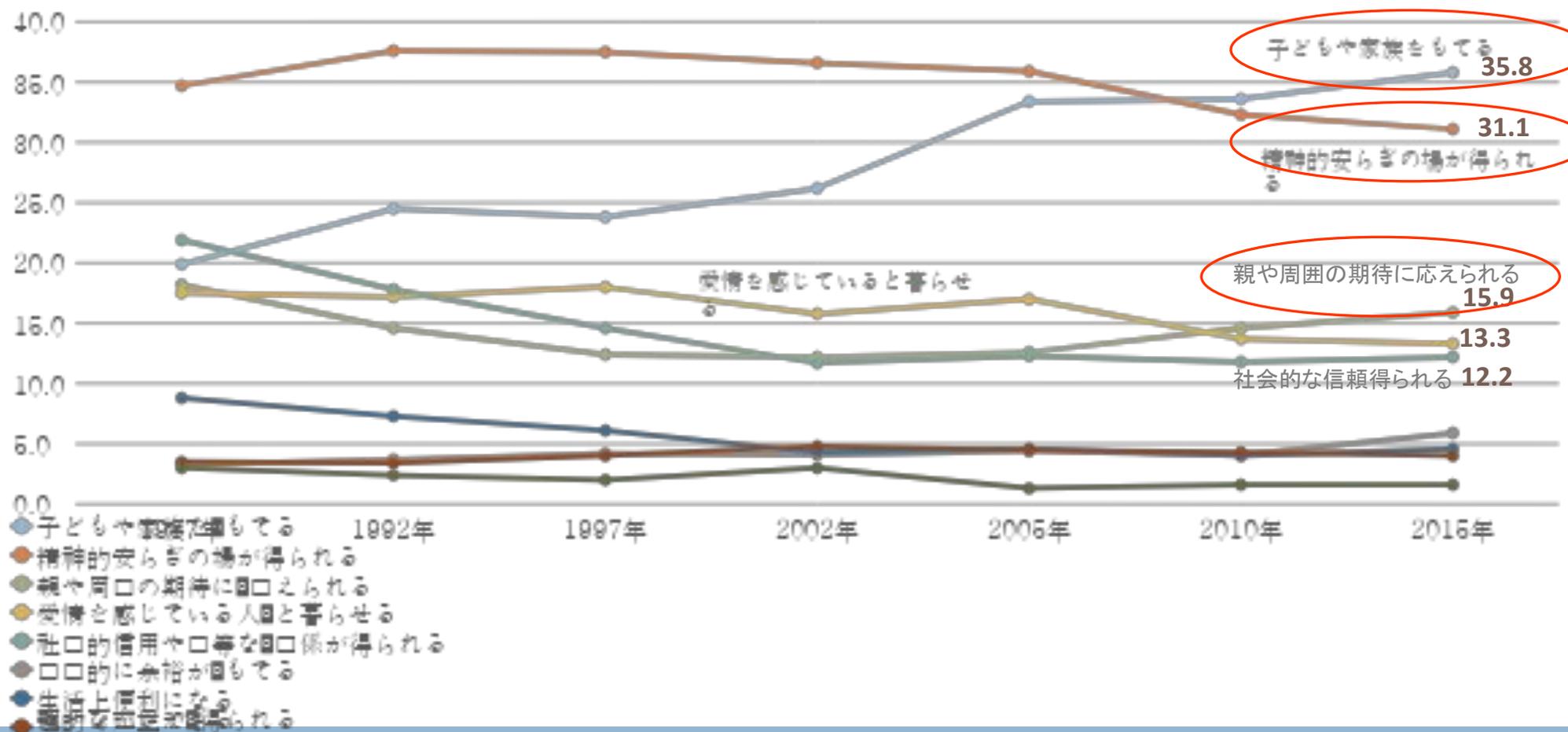
✓独身生活の最大の利点は、男女とも「行動や生き方が自由」が圧倒的多い →男性69.7% 女性75.5%

参考：結婚と出産に関する全国調査(国立社会保障・人口問題研究所) 第15回調査(2015年)

結婚という選択：結婚の利点（男性）

図表 「結婚の利点」を選択した未婚者の割合（%） 男性

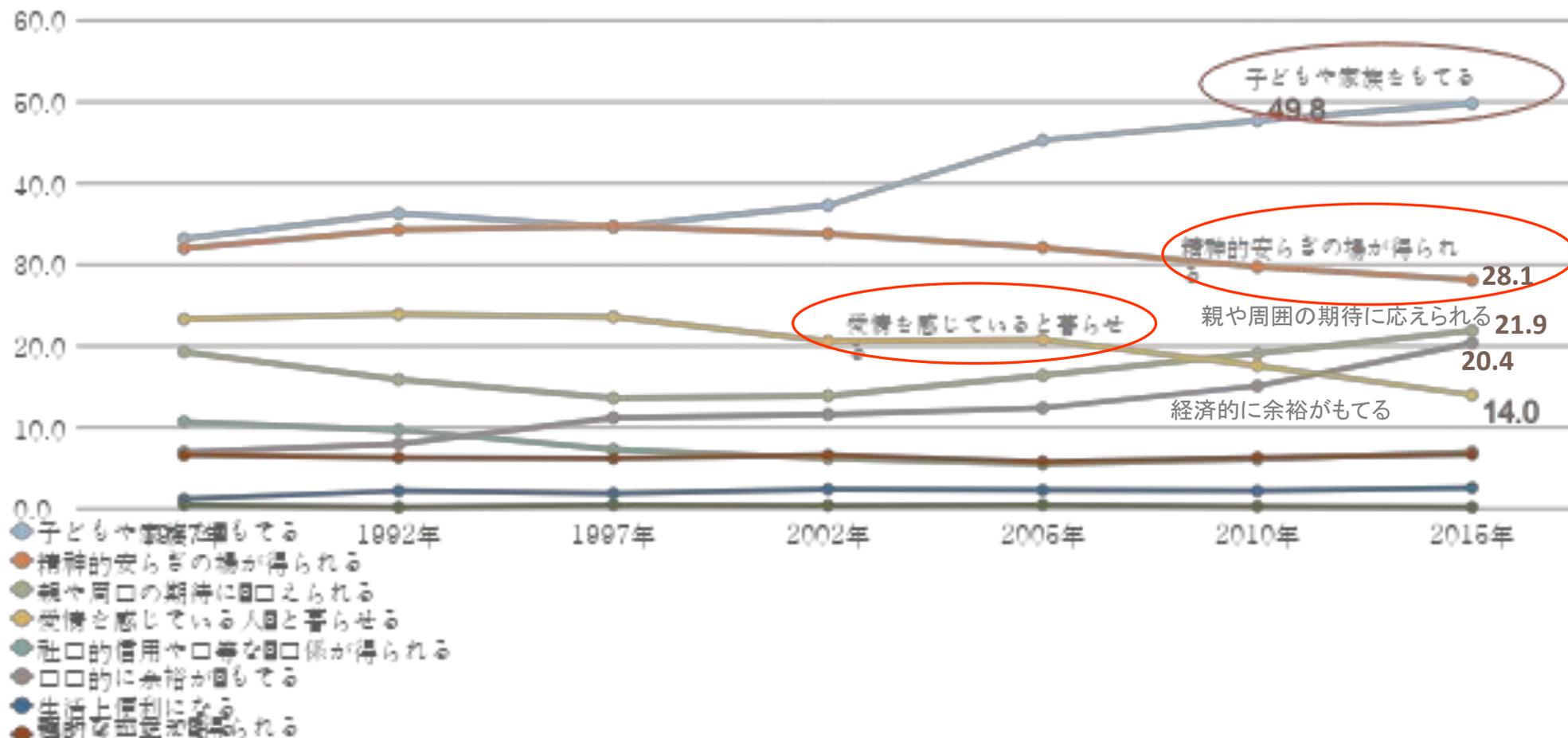
注：対象18～34歳の未婚者



結婚という選択：結婚の利点（女性）

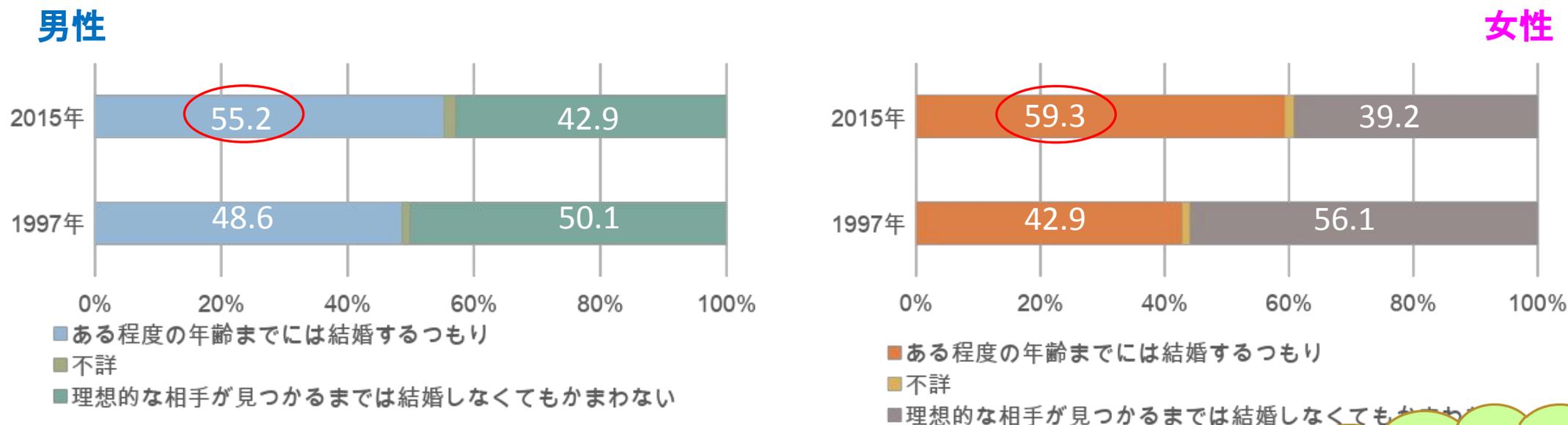
図表 「結婚の利点」を選択した未婚者の割合（%） 女性

注：対象18～34歳の未婚者



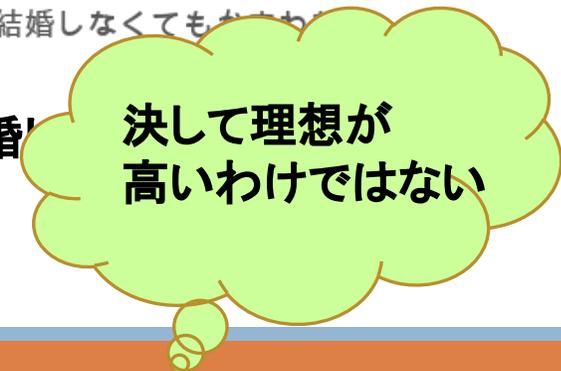
結婚という選択： 未婚者の結婚に対する考え方

図表：結婚意思をもつ未婚者の結婚に対する考え方



近年は、ある程度の年齢までには結婚したい > 理想な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない

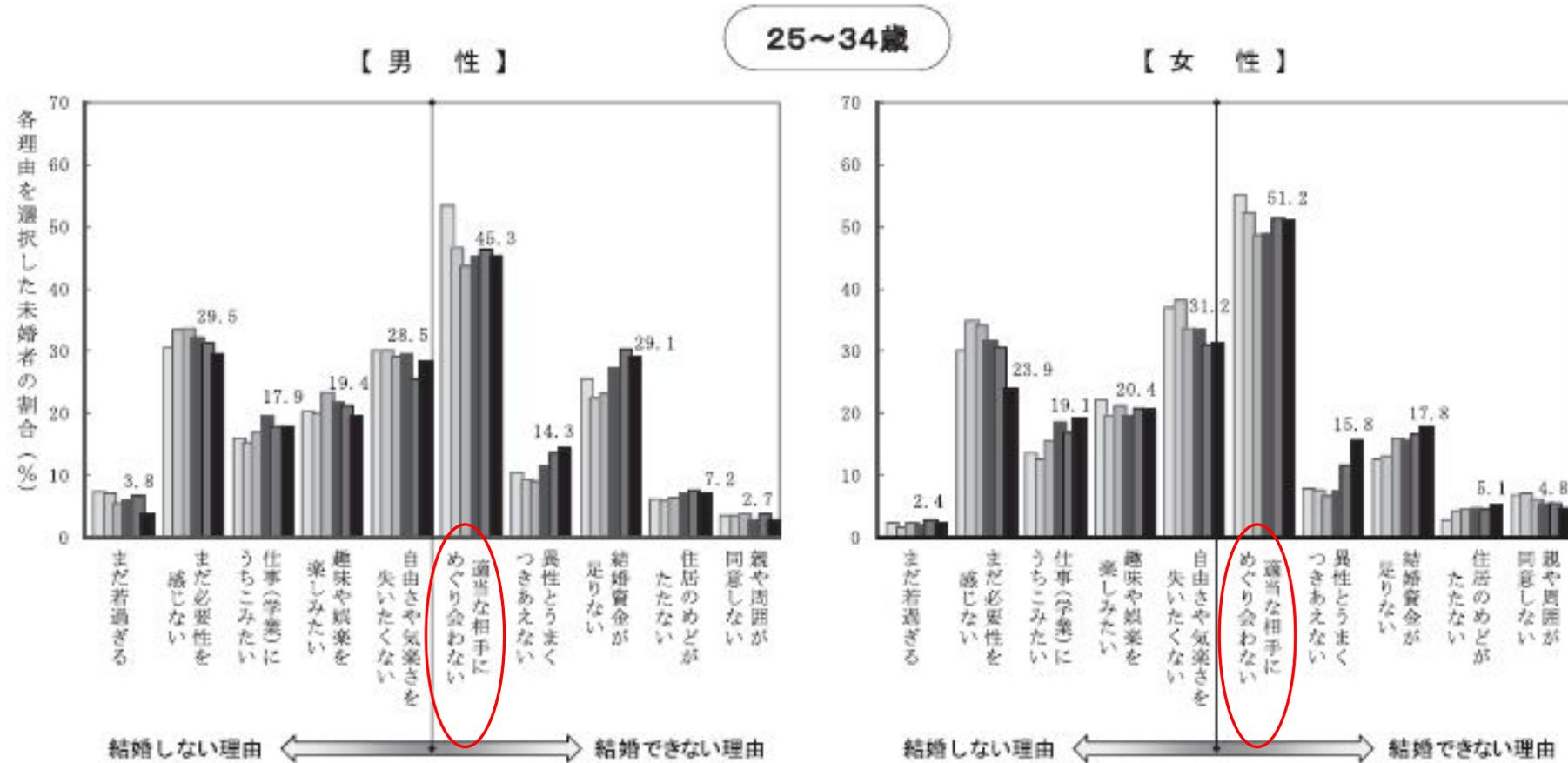
特に女性は、ある程度の年齢までに結婚したいという考えが30年前よりも強い



結婚という選択：まとめ

- ✓ 結婚する意思もつ未婚者は9割弱と多い
- ✓ 独身生活の利点も感じつつも、結婚に対する利点はあると過半数以上の男女が思っている
- ✓ 結婚の価値(未婚者における)は、男女ともに「子どもや家族をもてること」が非常に高い。「親や周囲の期待に応えたい」も上昇傾向
 - 「家族としてのつながり」を求める
- ✓ 結婚の意思がある未婚者は、ある程度の年齢で結婚したいと思っており、理想が決して高いわけではない

独身の理由： 25歳を過ぎると「適切な相手がいないこと」



今後期待したいこと:「出会いの欠如」の解決

リクルートブライダル総研による「少子化課題における解決優先度に関するレポート」によると

「出会いの欠如」を解決することが大きな課題

- ✓ 現在恋人がいない人の中で「恋人ほしい層」は推定約847万人
- ✓ 「出会いの欠如」を解決した場合(恋愛や結婚対象と出会うことができれば)、シミュレーション上、結婚後に子どもを持つ人数は、約11.3万人/年(推定)

既存コミュニティ外に「出会いの場」を提供すれば、「出会いの欠如」解決の可能性高い

- ✓ 出会いの場は、既存コミュニティ外に可能性がある
 - 「第4のコミュニティ」(所属コミュニティの職縁、地縁、血縁外)
- ✓ 背景:「出会い」の現状/職場や学校など自身のコミュニティ内での恋愛が減少
 - 若者の「既存コミュニティ内への配慮」や「リスク回避志向」がある
- ✓ 2015年の婚姻者のうち8.3%が婚活サービスで相手を見つけている(2000年:1.4%、急増)
 - 今後、既存コミュニティ外での出会いが受容される可能性が高い

婚活サービスは結婚に有効な手段になりつつある？

Press Release



2018年7月26日

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ

ブライダル総研

婚活実態調査2018

**婚活サービス^(※)は、結婚にむけた有効な手段として定着しつつある
特にネット系婚活サービスの台頭が特徴的**

- ✓ 2017年の婚姻者のうち、婚活サービスを通じて結婚した人は1割を超えている
- ✓ 「婚活サイト・アプリ」を通じて結婚した割合は過去最高に
- ✓ 独身者の婚活サービス利用経験率は調査以来最高に

※婚活サービス：結婚相談所、婚活サイト・アプリ、恋活サイト・アプリ、婚活パーティーイベントの4サービス

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ(本社：東京都品川区 代表取締役社長 山口 文洋)が運営するリクルートブライダル総研では、婚活の実態について詳細を把握するために、「婚活実態調査2018」を実施しました。ここに、調査結果の要旨をご報告いたします。

<婚活サービスによって結婚した人の状況>.....P3-4

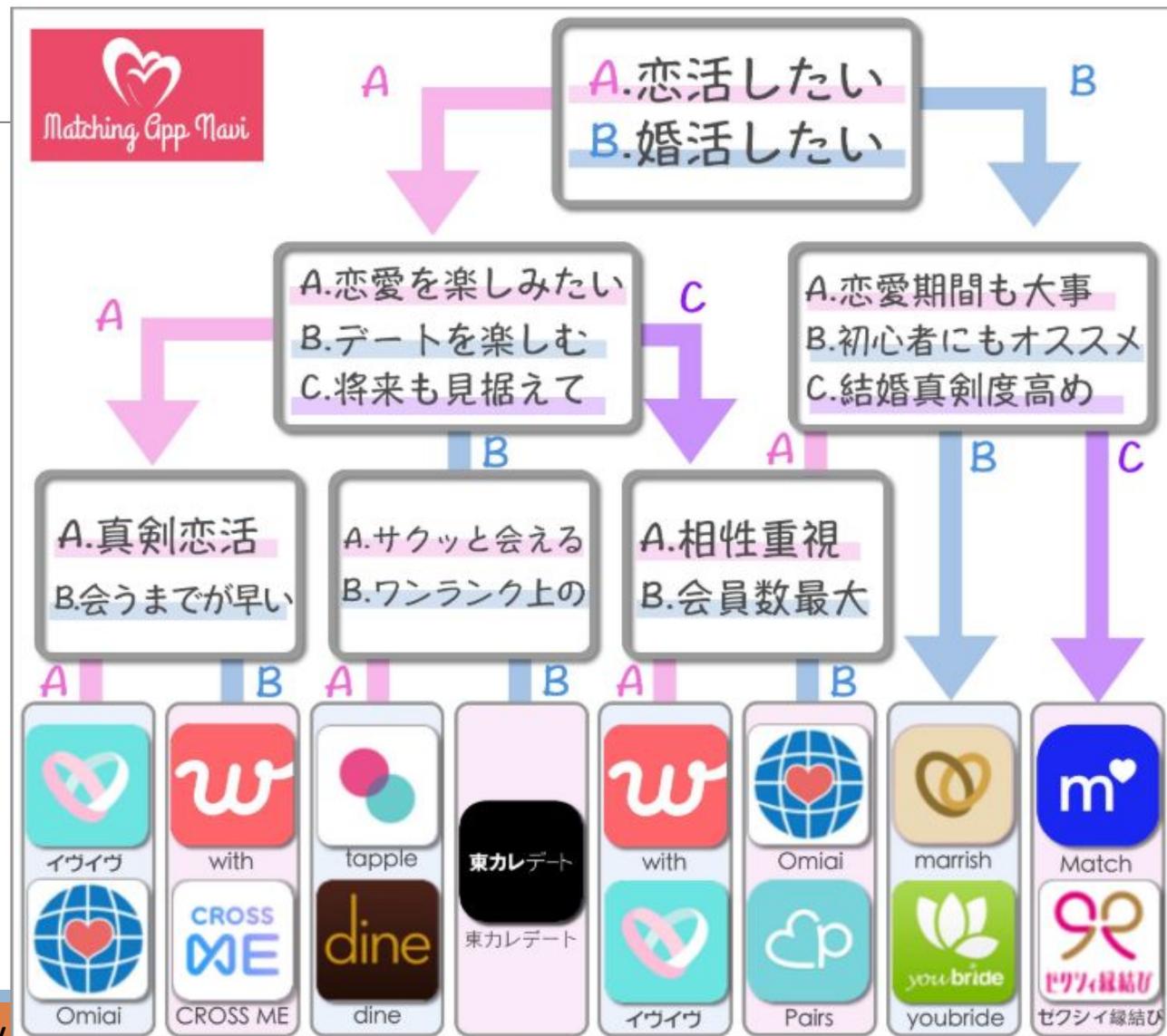
- ◆ 2017年の婚姻者のうち、婚活サービスを通じて結婚した人は10.4%。最近では、特にネット系婚活サービスを通じて結婚する割合の増加が特徴的。「婚活サイト・アプリ」を通じて結婚した割合は過去最高に。
- ◆ 婚活サービス利用者に限ってみると、婚活サービスによって結婚した人の割合は38.1%(2017年婚姻者)。利用すれば結婚に至る可能性が高く、また、他の婚活に比べ、婚活サービスは全体的に成婚率が高い。

<婚活サービス利用経験状況>.....P5-7

- ◆ 独身者の婚活サービス利用経験率は、過去3年で最も高く、18.1%。特に20代男性の利用経験率の上昇が特徴的。
- ◆ 婚活サービスごとに利用経験率をみると、ネット系婚活サービスが伸長し、全体を底上げしている。
- ◆ 婚活サービスごとに性年代別の利用経験率をみると、20代では「恋活サイト・アプリ」が他の婚活サービスと比べ高い。導入種として「恋活サイト・アプリ」を活用し始め、年代が高まるにつれて「結婚相談所」「婚活サイト・アプリ」「婚活パーティーイベント」に展開していく利用実態がみられる。

婚活サイト・アプリ

- ゼクシィ縁結
- pairs(ペアーズ)
- エン婚活エージェント
- 楽天オーネット
- ツヴァイ(ZWEI)
- Omiai(オミアイ)



さいごに

多くのひとの現状をまとめると、

「家族はほしい」から結婚はしたい。

理想の相手を求めるばかりではなく、ある程度の年齢で結婚するべきとわかってはいる。けど、今「出会い」がないし、既存のコミュニティでの恋愛も気が引ける。

婚活サイト・アプリで結婚したって人も増えているみたいだけど、実際どうなんだろう。やってみようかな。。。

→ここ数年で、婚活サービスを通じた婚姻は急増。今後の動向に注目する必要がある。

参考文献

- ✓ 厚生労働省(平成30年我が国の人口動態). <https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/81-1a2.pdf>
- ✓ リクルートブライダル総研. http://bridal-souken.net/research_news/
- ✓ 国立社会保障・人口問題研究所. (出生動向基本調査:結婚と出産に関する全国調査)
http://www.ipss.go.jp/site-ad/index_Japanese/shussho-index.html
- ✓ Conshare婚活体験の口コミサイト. <http://conshare.net/service-hikaku>
- ✓ マッチングアプリナビ. <https://matchapp-navi.com/matching-app-matome/>